

京絞りを世界のマーケットへ！ファッション素材に開発することでグローバルな流通が可能に

平成23年度 採択事業

株式会社 種田

代表取締役

種田

靖夫さん



種田 靖夫さん

職人の技が光る、伝統工芸「京鹿の子絞」

絞り染めは、日本では千数百年も前から行われており、衣装の模様表現として用いられてきました。括りの模様が子鹿の斑点に似ているところから「鹿の子絞り」と言われます。その括り粒の精緻さや繊細さ、括りによる独特の立体感の表現は、世界的にも他に類のないものであり、国の伝統産業にも指定されています。その業界内において絞彩苑種田は最も早く（天保8（1837）年）から創業し、規模は小さいながらも常に新しい息吹を吹き込んできました。

平成23（2011）年には経済産業省のJAPANブランド育成事業である「京絞りブランド化と市場開拓のための技術指導者養成事業」に採択され、京絞りを用いた製品で「2011 桂由美パリオートクチュールコレクション」に出展しました。

海外で知り得た、京絞りの潜在的な商品力

「繊維に模様を施すという意味においては世界中に絞りという技法が存在し、欧米のマーケットで絞りといえはインドやアフリカの単純で偶然できる模様を楽しむ技術が想起されます。世界の絞りの中でも、京絞りは非常に繊細な技術を有するだけでなく、偶然の模様の面白さというよりは意図した図案を表現できる技術を有していることが強みです。また、京絞りは手作業の集積の産物であることから、小ロット多品種の生産には極めて対応しやすいことが特長として挙げられます」と語る種田さん。

主要取引先である大手百貨店に売場を持ち、メーカーでありながらもマーケットのニーズをいち早く正確に掴むことで、これまでも帯揚げ、帯締めといった和装小物をはじめ、のれん、タペストリーなどのインテリア用品や浴衣など独自性の高い商品を製造販売してきましたが、同時に現マーケットの限界も感じていました。

そうした中、2011 桂由美パリオートクチュールコレクションで出展した際に、世界の一流デザイナー達から



正田絞と帽子絞の拡大写真。バイアス方向に絞る

伝統製品の活用

「視察を行った世界的なファッションの展示会において、他の国々の素材と比べてもオリジナル性が非常に高い」、「アフリカやインドの絞りと比べても伝統と文化が感じられる」という評価を得ましたが、一方では「コストが高い」、「生地巾が狭く欧米の流通にのらない」という厳しい意見ももらい、京絞りの潜在的な商品力と最大の課題を知ることができたそうです。

世界に通用するファッション素材を

そこで、種田さんは京絞りの素材の特長である繊細さや美しさを損なわずに、低コスト化や規格のグローバル化を図ることで新たな可能性を切り拓き、京絞りをテキストスタイルとして世界中のファッションやアパレル関連業界に販売していきたいという決意のもと、新たな商品開発に乗り出しました。

達成すべき目標は、低コスト化、生地巾の広幅化でした。



藤の輸出し総絞り。海外からの評価が高い

具体的には、まず会社が所有する1,000枚以上の型紙をスキャンしてデジタルデータ化の作業を行いました。さらに、京絞りの最大の特徴である生地表面の凹凸を繊細に読み込むために、(株)ニューリーに依頼して商品を立体的にスキャンしてもらうことでファッション素材としての転用への道筋を得ることができました。

次に、改良したミシンの導入による京絞り糸入れ作業の省力化を図りましたが、改良を施すには予算的に実現不可能であったため、計画を変更して低コスト化に最も効果があると思われる唄絞り機械の再生を行いました。

この機械は現在使用されていないものでしたが、これをオーバーホールするとともに調整を加え実働に耐えるものを完成させることができました。また、京絞りをファッション素材とするためにはその凹凸を固定するための裏打ちが必要となるのですが、この作業を従来違う用途で使われていた機械を導入することで作業効率が10倍以上改善することにも成功しました。

生地巾の広幅化については広幅素材を導入し、絞りを

施したうえで硝酸塩による形状記憶加工を試みました。大容量の90℃の硝酸塩溶液に一定時間浸潤させることで形態安定が可能となり、さらに絞りや染色を施してスカーフを完成させることができました。尚、開発にはどうしても費用が先行しますが、応援ファンドの助成金を費用の一部として役立てることができました。

伝統技術の継承と世界に向けたマーケットの創造を

販路開拓事業としては、パンフレットとホームページの作成を行いました。また、広幅の生地えんしゆくで絞り塩縮加工を施したスカーフと、従来の和装品も含めて東京の百貨店で一週間の京絞り特集展示会を行ったところ、新しい技術を施したスカーフが数点とはいえ販売でき、今後のマーケティングにも期待が持てることを実感しました。

京絞り業界は、職人の高齢化や将来性が乏しいと思われることから深刻な後継者不足に悩んでいます。伝統技術を活かし、新商品・技術開発、京絞りのグローバル化に取り組むことで、少しでも若者や後継者に京絞りに興味を持ってもらい、ひいては後世に同技術を継承してもらえればと考えています。

今後のビジネス展開として、日本だけでなくフランスやイタリアのデザイナーと共同で世界のマーケットを創造することも検討しています。現在、絞りのファッション素材としては、アフリカ、インドで安い人件費を利用した製品が見受けられますが、京絞りの代表的な鹿の子絞りについて広幅のもので低コスト、かつ高品質のものが供給できれば、新規性、優位性を共に有する商品になることでしょう。



辻が花絞。和の代表的なデザインを使用

事業概要

株式会社 種田

http://www.cosaien.com

代表：種田 靖夫

業種：京鹿の子絞り製造卸

創業：天保8（1837）年 設立：平成22（2010）年

住所：〒600-8066 京都市下京区柳馬場五条上る柏屋町347番地

TEL：075-351-4581 FAX.075-351-4583